

○**労山基金運営委員会**○**労山基金運営委員会**○**全国オンライン説明会を開催して**

2022年第35回全国連盟総会において、「全国的な開催単位として、会・クラブ基金担当者へのオンライン実務説明会を開催する」説明会の第1回目を7月20日19時00～20時00に実施した。

参加者157名（資料請求者のみも含む）実参加者140名であった、事前の質問事項も考慮しつつ、労山基金の歴史・概要、実務の説明を行なった。時間の関係で質疑応答の時間は取れなかったが、説明会終了後、参加者アンケートを寄せていただいた。

運営委員会ではアンケートを集計して要望に答え、労山基金制度の改善を進めていきたい。

アンケートで多くあったご意見は、他の山岳保険との違いと優位性について、オンラインでも良かったが地方連盟で実施してきたように対面式での実施を、事故事例などを含む実務の説明に時間を割いて欲しい、事務手続きの簡素化（給付申請書や事故一報などの

フォームの改善）、基金担当者向けと一般労山会員向けの説明できる施策を、労山基金制度の特殊性から丁寧な説明が必要、など多くの声がよせられました。基金運営委員会では、労山基金リーフレット、基金担当者マニュアル、JWAFホームページなどの改善を図っていく、質疑応答を中心にしたオンライン説明会実施などを準備して会員の期待に応えたい。

（陶山正／労山基金運営委員）

○**ハイキング委員会**○**「ハイキングA・B・C」**○**第5版発刊**

今年度の委員会重点活動のひとつとして議論を重ねてきたハイキングABC第5版の改訂作業が終わり、本誌が皆さんの手元に届くころには注文を受けられる。今回の改訂版の目玉は「ハイキングにスマホをどう活用するか」プログラムの知恵も借りて新しい項目を加えたことである。是非ご覧いただき、今後の為にもご意見、ご質問をお寄せいただきたい。

さて、第23回全国ハイキング交

流集会在、10月1日（土）～2日（日）に山口県連盟主管で山口県セミナーパークにおいて開催される。記念講演はスマホ活用登山に詳しいプロガイドの木元康晴氏。分科会は①会・クラブ運営と会員拡大②山行活動について③安全登山のために予定している。

ところで私の今年の山行回数は講習会を含めて、1月から8月までの間で50回を超えた。栃木県という地理上の特性から、無雪期の日帰りはもちろん、雪山、藪漕ぎ、沢登り、テント泊と多様な山行を楽しめ、また登山口までのアクセスもおおむね1～2時間。まことに登山愛好者にとつては、恵まれた地域に居住していると思う毎日である。

（八木澤昌通／全国ハイキング委員）

○**自然保護委員会**○**リニア新幹線計画から**○**南アルプスの自然を守る**

静岡県内には、労山はじめ（公社）JAC静岡支部、（一社）静岡県山岳SC連盟、静岡市岳連盟の4つの山岳団体がある。2022

2年度も4団体主催の「第5回南アルプス写真展」を開催する。リニア計画により南アルプスの自然や環境を守るため一般市民にも分かる手立てとして5年前から4団体が連携、結束して写真展を行っている。リニア計画により、南アルプスの地下水位が300m低下し、残土は大井川の河川敷に捨てられ世界遺産のユネスコエコパークへも影響が懸念される。「南アルプスは静岡の宝」と称して各団体A4〜全紙の大きさでカラーモノクロ問わず120点程持ち寄り秋に市民ギャラリーにて1週間展示する。既に4回開催したが、毎回800名ほどの来場者がありトータルでは3千人以上の来場者が写真展を観ている。後援は静岡県・静岡市で静岡新聞・中日新聞などにも取材依頼するとともに、会場内で県の自然保護課がドローンで撮影した映像を流すなど幅を広げた写真展を開催する。
(竹本幸造／全国自然保護委員長)

○遭難対策部

今年6件目の死亡事故発生

7月7日から8月1日までに届いた事故一報は23件23名。

転倒が9名(無雪期7名、登攀2名)。転落が2名(無雪期1名、室内ジム1名)。滑落が5名(無雪期1名、沢登り4名)。体勢が3名(訓練1名、沢登り2名)。落石が1名(登攀1名)。その他3名。

登山形態では、無雪期10名、登攀2名、沢登り9名、人工壁1名、訓練1名。傷病名は、骨折10名、損傷3名、裂傷1名、打撲6名、その他3名。男性11名、女性12名。所属連盟は、東京4名。道央・千葉・神奈川が各3名。大阪2名。道東・岩手・栃木・群馬・石川・愛知・京都・鹿児島が各1名。

年齢は、40代3名、50代8名、60代7名、70代4名、80代1名。

今年6件目の死亡事故の一報が入った。丹沢の沢登りでの滑落事故だった。事故者は、単独で高巻きを行い滝の落ち口と同様の高さ15m程を滑落し死亡した。悪い高巻きを、単独で登攀した事に問題があると考えるが今後の所属会で検証を待ちたい。

今回は、沢登りの事故が9件発生し転倒・体勢が4件、滑落が4件発生している。猛暑の日が多く沢登りの機会が増えるが慎重な行動で転倒・滑落を避けて頂きたい。

登攀では、ビレイデバイスが原因の事故が発生した。ルベルソを使用して降るそうとした時にロープが一気に流れ墜落した。器具の基本的な操作方法に問題が無かったのか。事故の詳細について、所属会の事故調査により検証を行って頂きたい。

登山口駐車場での事故が発生した。毎年繰り返し起きているが、十分な注意をすれば防げる事故であり入山前の準備には特に注意をお願いしたい。

(石川昌／全国遭難対策部長)

※事故一報の一覧表は次ページを参照してください。